

概

況

概況

1 取扱高

(1) 年間取扱高

総取扱高

平成11年中(1月5日から12月30日、開市日数272日)の総取扱数量は、716,173 tで前年比100.1%で僅かながら前年を上回り、総取扱金額は、662,496百万円で前年比99.6%と僅かに前年を下回った。

総平均価格は、前年に比べ5円安の925円となった。

取扱数量と平均価格を大分類別に比較すると、次のとおり。

鮮魚

まぐろ(国内)、まいわし、するめいかが増加し、はまち(養殖)、しろさけ、さんまが減少したが、取扱数量は195,106 tで前年比103.4%、平均価格は25円安の950円となった。

活魚

かんぱち、またいが増加し、はまちが減少したが、取扱数量は16344 tで前年比103.7%、平均価格は76円安の1,433円となった。

貝類

生鮮・冷凍ともに前年を下回り、取扱数量は52,989 tで前年比96.9%、平均価格は18円安の915円となった。

生鮮貝類では、あか貝、むきかきが増加し、ほたて貝、あか貝、むきほたて貝が減少した。

冷凍魚

たこ、ぎんたら、えび類が増加したが、めばち、するめ(国内)、ぎんさけが減少し、取扱数量は179,196 tで前年比98.6%、平均価格は19円安の1,112円となった。

淡水魚

あゆ、うなぎが減少し、冷あゆが倍増したが、取扱数量は2,779 tで前年比91.0%、平均価格は103円安の1,350円となった。

海藻類

生こんぶが減少し、わかめが生、塩とも増加、取扱数量は7,664 tで前年比95.1%、平均価格は20円安の462円となった。

加工品

煮干製品類、焼物製品類が増加し、塩蔵品類、塩干品類、素干品類が減少、取扱数量は262,096 tで前年比99.5%、平均価格は7円安の758円となった。

(2) 月別取扱高

— 1月 —

☆ 鮮魚	取扱数量	13,357 t (対前年比 98.3%)
	平均価格	1,047円 (" 33円安)

取扱数量では、まぐろ類は、めじが倍増、めばちの国内物が44%増加、輸入物が15%減少したが、類計では前年並み。まあじは、九州、山陰からの中型が主体で6%増。さばは、九州物が主体で12%減となった。まいわしは、前半は近海物主体に入荷が少なく、後半は東海、関西からの入荷が加わったが6%の減少。するめいかは、九州、山陰物主体で18%減と過去5年で最低の入荷となった。はまちは4%増加。たら類は12%減少、あんこうは21%減となった。平均価格では、まぐろ類は、めじが入荷増から28%安、めばちの国内物が8%高、輸入物が11%安となった。まあじは6%安。さばは7%高。まいわしは17%安となった。するめいかは5%高。はまちは9%安。たら類は15%高。あんこうは前年並みとなった。

☆ 活魚	取扱数量	1,264 t (対前年比 113.2%)
	平均価格	1,379円 (" 194円安)

取扱数量では、かんぱちが40%増、またいが23%増、あなごは前年並みとなった。平均価格では、あなごが16%安、かんぱちが16%安、またいが22%安となり、全体では12%安となった。

☆ 貝類	取扱数量	4,530 t (対前年比 96.9%)
	平均価格	902円 (" 16円高)

<生鮮貝類>

取扱数量では、あさがり11%減、ほたて貝が3%減、むきほたて貝が12%減となり、かきが8%増、むきかきが7%増となったものの、生鮮貝類全体では4%減となった。平均価格では、あざりとむきほたて貝が4%高、あか貝が6%高となり、ほたて貝が10%安、むきかきが4%安となったものの、生鮮貝類全体では3%高となった。

<冷凍貝類>

取扱数量は、3%増加。平均価格は、4%安となった。

☆ 冷凍魚	取扱数量	11,895 t (対前年比 91.1%)
	平均価格	1,095円 (" 4円高)

取扱数量では、まぐろ類は、ほんまぐろが37%増、印度まぐろが6%増となったものの主力のめばちが11%減となり、類計では4%減となった。いか類は、もんこういが16%減、するめいか(国内)が8%減となり、類計では14%減。かれい類は、からすかれいが82%の大幅減少に加え、あさばかれいも26%減となり、類計では52%減となった。さけ・ます類は、しろさけが加工向けなどアラスカ産の扱いが多くなり2.7倍と膨らんだものの、べにさけが供給減と高値警戒から74%減、ぎんさけがチリなどの現地価格高騰の影響を受け35%減少し、類計では24%減となった。えび類は、主力のインドネシアが12%減、インドも37%減少し、類計では6%減となった。ぎんたらは52%増。さばは、潤沢な入荷と値ごろ感から45%増加した。たこは21%減少した。平均価格では、まぐろ類は、めばちが前年並み、印度まぐろが10%安、類計では前年並みとなった。いか類は、するめいか(国内)が54%高、類計では前年並み。かれい類は、あさばかれいが9%安、入荷減からからすかれいが倍の値を付け、類計でも15%高となった。さけ・ます類は、しろさけが17%高、べにさけ、ぎんさけがそれぞれ64%、28%と値を上げ、類計でも19%高となった。えび類は、インドネシアが20%安、インドが29%安と総じて安く、類計でも16%安となった。ぎんたらは23%安。さばは21%安。たこは14%安となった。

☆ 加工品	取扱数量	18,523 t (対前年比 95.3%)
	平均価格	709円 (" 2円高)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩あきさけが58%減、塩べにさけが43%減、すけこが37%減となり、塩しろさけが85%増、いくらが57%増となったが、類計では7%減となった。塩干品類は、丸干いわしが31%減、開干あじが13%減、開干さんまが21%減となり、類計でも13%減となった。煮干製品類は、煮干いわしが23%増、しらす干が12%増となり、類計でも11%増となった。練製品類は、かまぼこが17%減、揚物が11%減となり、類計でも11%減となった。平均価格では、塩蔵品類は、塩あきさけが20%安となったものの、塩べにさけが45%高、塩ぎんさけが21%高、すけこが8%高となり、類計でも11%高となった。塩干品類は、開干さんまが10%高、類計では前年並み。煮干製品類は、しらす干が8%安、類計では10%安となった。練製品類は4%安。湯煮品類は、煮たこが12%安、類計では前年並みとなった。

- 2月 -

☆ 鮮魚	取扱数量	14,691 t (対前年比 106.3%)
	平均価格	989円 (# 20円安)

取扱数量では、まぐろ類は、まぐろとめばちの輸入物がそれぞれ22%減となったが、めじが3倍、めばちの国内物が63%の増加となり、類計では2%の増となった。まあじは、九州からの中型を主体に14%増加。さばは、九州物が主体で28%増。まいわしは、近海物が主体で4%増。するめいかは、九州、山陰物を主体に、前半はシケの影響で少なかったが後半は潤沢な入荷となり37%増となった。はまちは9%減。たら類は8%減となった。平均価格では、まぐろ類は、入荷増からめじが19%安、めばちの国内物が13%安となり、まぐろの輸入物が18%高となったものの、類計は4%安となった。まあじは7%安。さばは15%安。まいわしは13%安。するめいかは8%安。はまちは7%高。たら類は32%高となった。

☆ 活魚	取扱数量	1,176 t (対前年比 106.9%)
	平均価格	1,407円 (# 71円安)

取扱数量では、またいが8%増、かんぱちが38%増となり、あなごが10%減、はまちは7%減となった。平均価格では、あなごが7%安、またいが17%安、はまちは5%安、かんぱちが16%安となり、全体でも5%安となった。

☆ 貝類	取扱数量	4,663 t (対前年比 99.5%)
	平均価格	865円 (# 65円高)

<生鮮貝類>

取扱数量では、あさがり5%減、はまぐりが10%減、あおやぎが40%減となり、かきが26%増、むきかきが14%増となったが、生鮮貝類全体では2%減となった。平均価格では、あおやぎが60%高、はまぐりが15%高、むきかきが14%高となり、生鮮貝類全体でも10%高となった。

<冷凍貝類>

取扱数量は、13%増加。平均価格は、7%安となった。

☆ 冷凍魚	取扱数量	13,729 t (対前年比 103.4%)
	平均価格	1,029円 (# 6円安)

取扱数量では、まぐろ類は、ほんまぐろが43%増、印度まぐろが11%増となったが、めばちが19%減となったため、類計では12%減となった。いか類は、するめ(国内)が21%減、もんこういか63%増、類計では前年並み。かれい類は、主力のあさばかれいがロシア産の入荷が順調に推移し安値好感から36%増となり、類計でも20%増となった。さけ・ます類は、しろさけが2.5倍と1月に引き続き高水準の取引となり、ぎんさけもチリ産の潤沢な入荷を受け42%増、べにさけだけが供給減と高値警戒から70%減となり、類計では25%増となった。えび類は、主力のインドネシアが34%増、インドが11%減、類計では5%増。かに類は17%増。たこは6%増となった。平均価格では、まぐろ類は、印度まぐろが4%安、きわだが13%高、めばちが10%高、類計では16%高となった。いか類は、するめ(国内)が43%高、もんこういか9%安となり、類計では前年並み。かれい類は、あさばが16%安、類計でも13%安。さけ・ます類は、しろさけが26%安となったものの、べにさけが50%高、ぎんさけが38%高となり、類計でも21%高となった。えび類は、インドネシアが22%安、インドが28%安、類計でも18%安となった。たこは13%安となった。

☆ 加工品	取扱数量	20,137 t (対前年比 101.3%)
	平均価格	705円 (# 7円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩あきさけが39%減、塩べにさけが19%減、すけこが26%減となったが、塩しろさけが38%増、いくら41%増、さらに塩かずのこが加工向けとして

安値品の販売がまとまりこの時期としては極めて多い9倍の取り扱いとなり、類計でも7%増となった。塩干品類は、開干あじが7%減、開干さんまが12%減、丸干いわしが15%増、開干さばが18%増、類計では前年並み。煮干製品類は、しらす干が10%増、類計では7%増。焼物製品類は、26%減。素干品類は、干するめ(国内)が31%減、類計でも6%減。練製品類は4%減。平均価格では、塩蔵品類は、塩あきさけが12%安、すじこが11%安、塩かずのこが78%安となったが、塩べにさけが35%高、塩ぎんさけが37%高となり、類計では3%高となった。塩干品類は、丸干いわしが11%安、開干さばが7%安、開干さんまが8%高となったが、類計では3%安となった。焼物製品類は10%高。湯煮品類は、煮たこが13%安、類計では4%安となった。

- 3月 -

☆ 鮮魚	取扱数量	15,511 t (対前年比 103.2%)
	平均価格	1,040円 (# 29円安)

取扱数量では、まぐろ類は、まぐろの国内物が63%増、輸入物は52%減、めばちの国内物が24%増、輸入物が22%減、きわだ(輸入)は倍増、類計では16%減となった。まあじは、九州、紀州物の中型を主体に26%増加。さばは、九州、近海物の大型主体に4%増加。まいわしは、前半は近海物、後半は山陰物を主体に18%増加。するめいかは、九州、山陰物を主体に18%増加。はまちは28%減。かつおは九州物の大型が主体で6%増加した。平均価格では、まぐろ類は、まぐろの輸入物が入荷減から48%高、きわだの輸入物が46%高、類計でも13%高となった。まあじは15%安。さばは前年並み。まいわしは37%安。するめいかは前年並み。はまちは21%高。かつおは前年並みとなった。

☆ 活魚	取扱数量	1,463 t (対前年比 109.0%)
	平均価格	1,437円 (# 72円安)

取扱数量では、あなごが前年並み。かんぱちが44%増、またいが4%増としたがはまちは19%減少した。平均価格では、あなごはまちは6%高となったが、かんぱちが19%安、またいが10%安となり全体では5%値を下げた。

☆ 貝類	取扱数量	5,035 t (対前年比 103.7%)
	平均価格	890円 (# 58円高)

<生鮮貝類>

取扱数量では、はまぐりとあか貝が12%増、むきかきは29%増、あおやぎが14%減となったが、生鮮貝類全体では3%増となった。平均価格では、はまぐりが13%高、あか貝が10%高、あおやぎが21%高、むきかきが7%高となり、生鮮貝類全体でも7%高となった。

<冷凍貝類>

取扱数量は、11%増加。平均価格は3%高となった。

☆ 冷凍魚	取扱数量	16,443 t (対前年比 98.9%)
	平均価格	1,054円 (# 16円高)

取扱数量では、まぐろ類は、印度まぐろが10%増、きわだが28%増、びんながも3.2倍としたが、供給量の減っているめばちが10%減となり、類計では前年並みとなった。いか類は、するめ(国内)が高値警戒から模様眺めの商いとなり20%の減、もんこういかも25%減、むきかきが45%増、類計では9%減。さけ・ます類は、しろさけが普段少ないカナダ産が加工用に出回り81%増、品不足で単価高のぎんさけが29%減となり類計では10%の減となった。えび類は、主力のインドネシアが単価安から30%増、インドが22%減、類計では7%増。かに類は21%増。ぎんたらは、値ごろ感から順調な荷動きが続き43%増。さばは16%増。たこは、安値で推移し10

%増。平均価格では、まぐろ類は、めばちが11%高、ほんまぐろが10%高、きわだが15%高、びんながが7%高、類計でも6%高となった。いか類は、するめ(国内)が35%高、むきいかは10%安、類計では前年並み。さけ・ます類は、しろさけが14%高、べにさけが24%高、ぎんさけが34%高となり、類計でも26%高となった。えび類は、インドネシアの21%安、インドの17%安、類計でも14%安。ぎんたらは19%安。さばは21%安。たこも16%安となった。

☆ 加工品	取扱数量	22,659 t (対前年比 100.0%)
	平均価格	758 円 (" 3 円高)

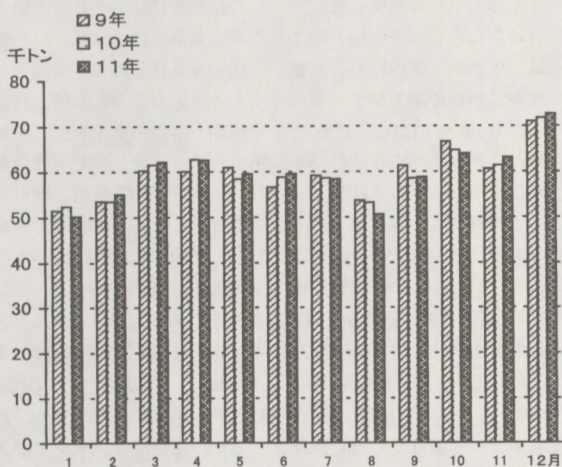
取扱数量では、塩蔵品類は、塩しろさけが解凍物の出回り多く39%増、原料不足の塩あきさけ、塩べにさけ、塩ぎんさけがそれぞれ32%、36%、38%減、いくらが北米産などの輸入物が潤沢に出回り41%増、類計では前年並み。塩干品類は、開干さんまが17%減、開干さばが10%減、類計でも6%減。煮干製品類は、こうなごが20%増、類計でも9%増となった。焼物製品類は27%減。素干品類は13%減となった。平均価格では、塩蔵品類は、塩しろさけが6%安となったが、塩べにさけが52%高、塩ぎんさけが43%高、塩あきさけが20%高、いくらも4%高となり、類計でも9%高。塩干品類は、開干さんまが10%高、開干さばが8%安、類計では前年並み。煮干製品類は、こうなごが7%高、類計でも7%高。焼物製品類は、7%高。湯煮品類は、煮たこが14%安、類計でも6%安となった。

— 4 月 —

☆ 鮮魚	取扱数量	15,008 t (対前年比 99.9%)
	平均価格	1,019 円 (" 15 円高)

取扱数量では、まぐろ類は、まぐろの輸入物が33%増となったが、めばちの国内物が30%減、輸入物も11%減、印度まぐろが46%減となり、類計では前年並みとなった。まあじは、九州物中型主体に前年並み。さばは、九州、近海物大型主体で3%増。まいわしは、山陰、北陸、近海物主体に24%増。するめいかは、山陰、北陸物主体で後半まとまり12%増。かつおは、九州物大型主体で20%減。はまちは37%減。平均価格では、まぐろ類は、まぐろの国内物が20%安、めばちの国内物が34%高、輸入物が3%安、類計では3%安となった。さばは7%高。まいわしは31%安。するめいかは7%安。かつおは30%高。はまちは23%高となった。

図1-1 総取扱数量の動き



☆ 活魚	取扱数量	1,453 t (対前年比 106.0%)
	平均価格	1,363 円 (" 57 円安)

取扱数量では、かんぱちが44%増、またいが5%増、はまちが29%減、ひらめが6%減となった。平均価格では、はまちが13%高、あなごが8%高、ひらめが6%高としたが、かんぱちが18%安、またいが8%安となり全体では4%安となった。

☆ 貝類	取扱数量	4,409 t (対前年比 96.8%)
	平均価格	893 円 (" 37 円高)

<生鮮貝類>

取扱数量では、はまぐりとあか貝が6%増加、さざえが16%減、あおやぎが33%減、むきほたて貝が11%減となり、生鮮貝類全体では4%減となった。平均価格では、はまぐり、あか貝、ほたて貝が5%高、さざえが14%高、あおやぎが45%高となり、生鮮貝類全体でも5%高となった。

<冷凍貝類>

取扱数量は、4%増加。平均価格は、前年並み。

☆ 冷凍魚	取扱数量	17,476 t (対前年比 101.2%)
	平均価格	1,057 円 (" 15 円高)

取扱数量では、まぐろ類は、きわだが59%増、主力のめばちが漁況が悪く在庫も前年より少ないため18%減となり、類計でも12%の減となった。いか類は、するめの国内物が、21%減となったが、大型連休を控えむきいかは38%増と扱いを伸ばし、類計でも8%増加。かれい類は、単価の安いあさばかれいが15%増、類計でも10%増。さけ・ます類は、荷動きが低調で単価高のべにさけとぎんさけがそれぞれ45%減、40%減、代替品としての引き合いからしろさけが57%増、ますのすけが4.3倍となったが、類計では8%の減。えび類は、荷動きが好調に推移し、主力のインドネシアが18%増、インドが9%増、類計も17%の増。さばは36%増。たこは、安値推移により扱いが好調で40%増。ぎんたらは79%増となった。平均価格では、まぐろ類は、めばちとほんまぐろが15%高、類計も12%高となった。いか類は、するめいかの国内物が38%高、むきいかは15%安、もんこういかは8%安、類計では前年並み。かれい類は5%高。さけ・ます類は、しろさけが43%高、べにさけが44%高、ぎんさけが29%高となり、類計でも22%高。えび類は、インドネシアが19%安、インドが32%

図1-2 総平均価格の動き

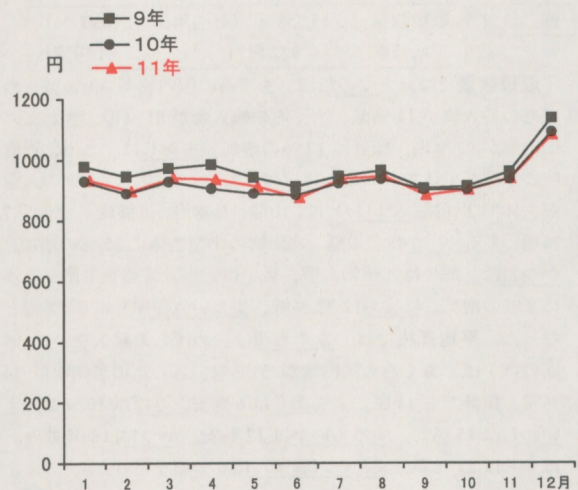


図 2-1 鮮魚取扱数量の動き

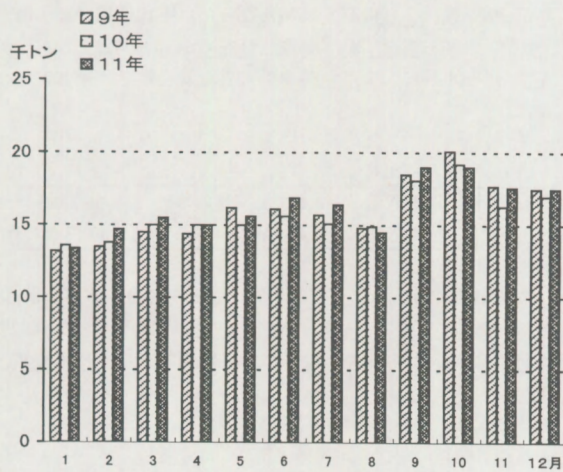
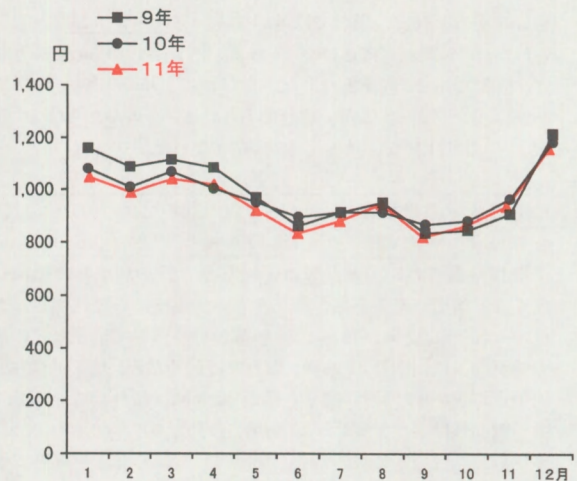


図 2-2 鮮魚平均価格の動き



%安、類計でも16%安。さばは20%安。ぎんたらは16%安。たこは17%安となった。

☆ 加工品	取扱数量	23,109 t (対前年比 99.0%)
	平均価格	759円 (// 26円高)

取扱数量では、塩蔵品類は、在庫薄と単価高などから塩あきさけが44%減、塩べにさけが47%減、塩ぎんさけが43%減となり、塩しろさけが5%増、いくらが12%増、すけこが9%増となったものの、類計では8%減。塩干品類は、開干さんまが10%減、類計でも14%減となった。煮干製品類は、煮干いわしが11%減、こうなごが37%減、しらす干が40%増、類計では6%増。焼物製品類は5%減。素干品類は、干するめ(国内)が39%減、類計でも10%減。湯煮品類は、煮たこが13%増、類計でも5%増。平均価格では、塩蔵品類は、塩あきさけ、塩しろさけ、塩べにさけ、塩ぎんさけがそれぞれ79%高、7%高、45%高、50%高、いくらが3%安、類計では15%高となった。塩干製品類は、開干さんまが12%高、類計でも11%高。煮干製品類は、煮干いわしとこうなごが11%高、類計でも7%高となった。素干品類は、干するめ(国内)が16%高、類計でも3%高。湯煮品類は、煮たこが16%安、類計でも4%安となった。

— 5月 —

☆ 鮮魚	取扱数量	15,555 t (対前年比 103.8%)
	平均価格	922円 (// 31円安)

取扱数量では、まぐろ類は、まぐろの国内物が30%減、めばちの輸入物が14%減、まぐろの輸入物が81%増、きわだの国内物が82%増、類計は17%の増加。まあじは、九州、近海物の中型が主体で7%増。さばは、九州、四国、近海物の大型が主体で2%減。まいわしは、山陰、日本海、近海物が主体で7%増。するめいかは、山陰、北陸物の小型主体に35%の増加。かつおは、前半は九州物大型、後半は近海、常磐物中型を主体に8%の増加。はまちは32%減。またい(養殖)は36%増となった。平均価格では、まぐろ類は、めばちの輸入物が3%高のほかに、まぐろの国内物が5%安、きわだの国内物が14%安、類計でも14%安。まあじは6%安。さばは10%高。まいわしは15%安。するめいかは12%安。かつおは前年並み。はまちは27%高。またい(養殖)は9%値を下げた。

☆ 活魚	取扱数量	1,402 t (対前年比 103.5%)
	平均価格	1,347円 (// 61円安)

取扱数量では、かんぱちが36%増、またいが6%増、あなごが5%減、ひらめが13%減となった。平均価格では、ひらめが9%高、たこが17%高、かんぱちが16%安、またいが11%安とし、全体では4%安となった。

☆ 貝類	取扱数量	3,998 t (対前年比 88.0%)
	平均価格	894円 (// 53円高)

<生鮮貝類>

取扱数量では、しじみが9%減、ほたてが14%減、さざえが24%減、あおやぎが45%減、むきほたて貝が15%減少し、生鮮貝類全体でも12%減となった。平均価格では、あさり、しじみが3%安、ほたて貝が6%高、さざえが8%高、あおやぎが42%高、むきほたて貝が11%高となり、生鮮貝類全体では6%高となった。

<冷凍貝類>

取扱数量は、15%減少。平均価格は、8%高となった。

☆ 冷凍魚	取扱数量	15,139 t (対前年比 104.4%)
	平均価格	1,088円 (// 34円高)

取扱数量では、まぐろ類は、めばちが沖漁の不振と供給過多ぎみだった前年との比較ということもあり12%の減、印度まぐろも12%減少した。一方、めばちの代替えとしての引き合いからきわだが3倍と増加したが、類計では5%減。いか類は、するめ(国内)が高値から扱いが見送られ35%減としたが、新物の搬入がまとまったもんこういかが77%増、むきいかも20%増加し、類計でも6%増。さけ・ます類は、単価高と在庫薄のべにさけが35%減としたが、チリ産が活発な荷動きを示したぎんさけが15%増、しろさけが47%増、類計でも5%増となった。えび類は、インドネシアが10%減、インドが生産増から85%増、類計では4%の増加。ぎんたらは60%増。たこも引き続き高水準の扱いが続き75%の増となった。平均価格では、まぐろ類は、入荷減からめばちが27%高、きわだも22%高とし、類計でも14%高となった。いか類は、するめ(国内)が34%高、もんこういかが22%安、類計では2%安。さけ・ます類は、しろ、べに、ぎんさけが74%、39%、23%高となり類計でも23%高となった。えび類は、インドが入荷増から34%安、インドネシアが13%安、類計でも10%安。ぎんたらは10%安。さばは18%安。たこも17%安となった。

☆ 加工品	取扱数量	22,436 t (対前年比 102.6%)
	平均価格	746円 (" 19円高)

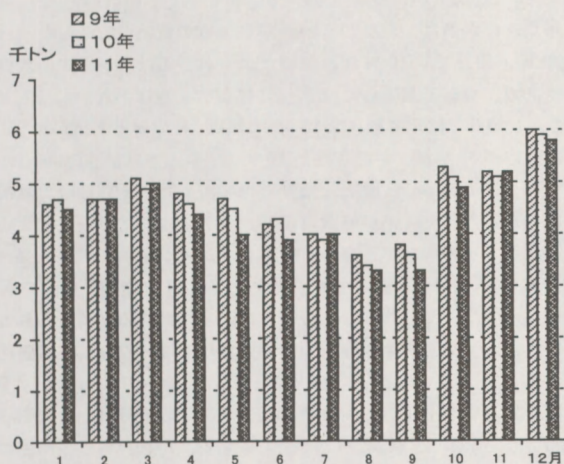
取扱数量では、塩蔵品類は、引き続き単価高などから塩あきさけが38%減、塩しろさけが25%減、塩べにさけが54%減、塩ぎんさけが32%減とし、すじこが23%減少、類計でも16%の減となった。塩干品類は、開干あじが3%減、開干さんまが13%減、類計でも7%減。煮干製品類は、煮干いわしが33%減、こうなごが52%増、しらす干が2.3倍となり、類計でも87%増となった。素干品類は、干するめ(国内)が48%減、類計でも19%減。湯煮品類は、煮たこが21%増、類計でも22%増となった。平均価格では、塩蔵品類は、塩あきさけが45%高、塩しろさけと塩べにさけが47%高、塩ぎんさけが30%高、すじこが17%高、類計でも23%高となった。塩干品類は、開干さんまが12%高、類計では前年並み。煮干製品類は、こうなごが36%高、入荷増のしらす干が17%安、類計では3%安となった。素干品類は、干するめ(国内)が24%高、類計では前年並み。湯煮品類は、煮たこが16%安、類計でも11%安となった。

- 6月 -

☆ 鮮魚	取扱数量	16,936 t (対前年比 108.7%)
	平均価格	835円 (" 62円安)

取扱数量では、まぐろ類は、三陸のまき網漁からの入荷が昨年より約3週間早く始まりまぐろの国内物が4.5倍、めじが5.5倍となり、さらにまぐろの輸入物が11%増、きわだ(国内)が73%増と大幅に扱いを伸ばし、めばちの輸入物が15%減となったが、類計では80%の増加となった。まあじは、九州、紀州、山陰物中型主体に前年並み。さばは、四国、九州、近海物大型主体の入荷で7%減。まいわしは、近海物を主体に9%増。するめいかは、北陸物主体に後半北海物に加わり38%増。かつおは、前半が近海物、後半が三陸、常磐物主体の入荷で4%減。はまちは58%減少。平均価格では、まぐろ類は、入荷増からまぐろの国内物が42%安、輸入物が23%安、めじが33%安、きわだの国内物が33%安、めばちの輸入物が14%安と軒並み安く類計でも29%安。まあじは4%高。さばは前年並み。まいわしは20%安。するめいかは24%安。かつおは12%高。はまちは39%高となった。

図3-1 貝類取扱数量の動き



☆ 活魚	取扱数量	1,370 t (対前年比 99.1%)
	平均価格	1,334円 (" 79円安)

取扱数量では、あなごが11%減少し、かんぱちが39%増、またいが5%増となった。平均価格では、あなごが3%高、かんぱちが14%安、またいが12%安となり、全体では6%安となった。

☆ 貝類	取扱数量	3,900 t (対前年比 91.0%)
	平均価格	893円 (" 25円高)

<生鮮貝類>

取扱数量では、ほたて貝が19%減、さざえが12%減、あおやぎが36%減、むきほたて貝が13%減少し、生鮮貝類全体でも6%減となった。平均価格では、しじみが4%安、ほたて貝が13%高、さざえは前年並み、あおやぎが32%高、むきほたて貝が10%高となり生鮮貝類全体では3%高となった。

<冷凍貝類>

取扱数量は、28%減少。平均価格は、12%高となった。

☆ 冷凍魚	取扱数量	14,174 t (対前年比 95.9%)
	平均価格	1,093円 (" 30円高)

取扱数量は、まぐろ類は、前年に比べ供給減のめばちが単価高も響き22%減、印度まぐろも16%減となり、きわだが中間品以下のめばちの代替需要でほぼ倍増となったが、類計では17%減。いか類は、するめいか(国内)が割高感と生鮮物の出回り増から21%減、もんこういかが加工筋の大口買いや海外需要を反映し2.2倍に増加し、類計でも12%増となった。かれい類は、安値で需要を伸ばしたあさばかれいが48%増、アラスカ産の扱いが好調なからすかれいが倍増し、類計でも36%増。さけ・ます類は、単価高のべにさけとぎんさけが荷動きの減退から64%減、50%減と大きく落ち込んだ。これに対し、引き合いの強まったしろさけが3倍に増えたが、類計は30%減となった。えび類は、良品不足から搬入量が少なく、安値ながら荷動きが後退した。主力のインドネシアが21%減、インドが28%増、類計では9%減。ぎんたらは2.4倍で今年最多数量。たこは、依然好調で54%増。平均価格では、まぐろ類は、ほんまぐろが12%高、入荷減のめばちが35%高、きわだが33%高と総じて高く類計でも20%高となった。いか類は、するめ(国内)が22%高、もんこういかが19%安、類計は7%安。かれい類は、あさばかれいが11%安、からすかれいが30%安、類計でも11%安。さけ・ます類は、しろさけが57%高、

図3-2 貝類平均価格の動き

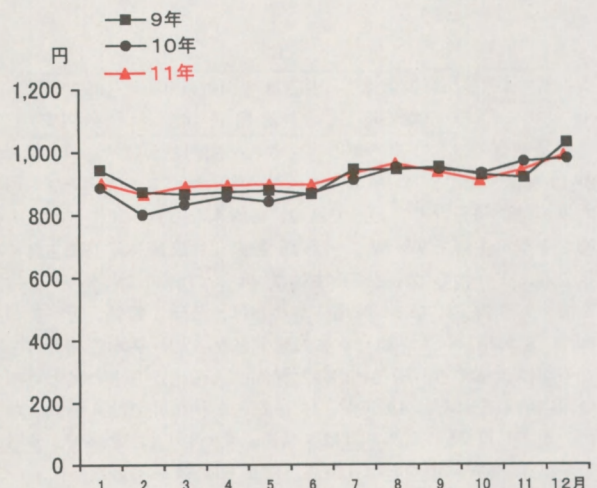
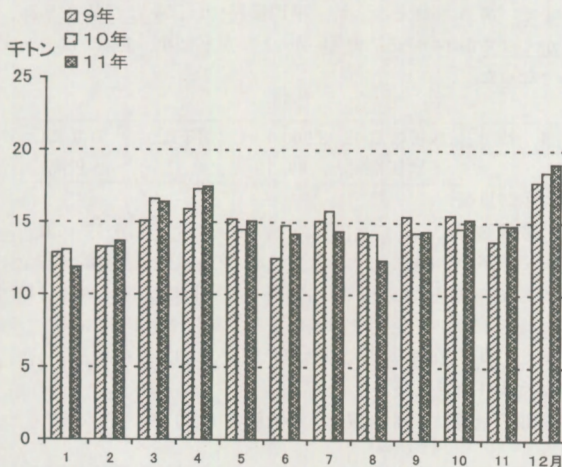


図4-1 冷凍魚取扱数量の動き



べにさけが31%高、ぎんさけが17%高、類計でも15%高となった。えび類は、インドネシアが19%安、インドが33%安、類計でも15%安。ぎんたらは、入荷増も前年並み。さばは12%安。たこは18%安となった。

☆ 加工品	取扱数量	21,975 t (対前年比 101.8%)
	平均価格	708円 (" 13円安)

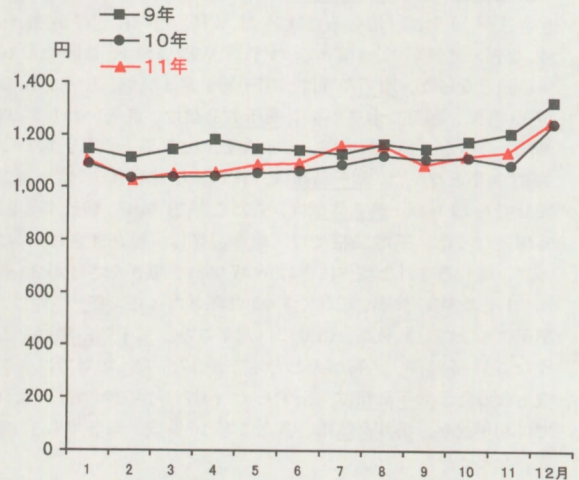
取扱数量では、塩蔵品類は、引き続き良品が少ない割に単価が高い塩あきさけが49%減、塩べにさけが41%減、塩ぎんさけが40%減となり、すけこが26%減、いくらが24%増となったが類計では19%減少した。塩干品類は、開干さんまが15%減、類計でも5%減となった。煮干製品類は、煮干いわしが29%減、しらす干が2.5倍に増え類計でも78%増。焼物製品類は32%増。素干品類は、干するめ(国内)が59%減、類計でも21%減。湯煮品類は、煮たこが13%増、類計でも6%増となった。平均価格では、塩蔵品類は、塩あきさけが90%高、塩しろさけが30%高、塩べにさけが22%高、塩ぎんさけが28%高、すけこが18%高、いくらが6%安、類計では20%高となった。塩干品類は、開干さんまが12%高、類計では前年並み。煮干製品類は、煮干いわしが5%高、入荷の多かったしらす干が38%安となり類計でも23%安。焼物製品類は10%安。素干品類は、干するめ(国内)が22%増、類計は前年並み。湯煮品類は、煮たこが18%安、類計でも15%安となった。

- 7月 -

☆ 鮮魚	取扱数量	16,378 t (対前年比 108.7%)
	平均価格	881円 (" 33円安)

取扱数量では、まぐろ類は、まぐろの国内物が52%増、輸入物が19%減、めじが44%増、きわだの国内物が3.2倍、めばちの国内物が2.7倍となり、類計では27%増となった。まあじは、九州物の中型が主体で9%減。さばは、神奈川、三陸、常磐物主体で前年並み。まいわしは、近海物主体に44%の増加。するめいかは、北海、青森物主体で44%増。かつおは、三陸、常磐、近海物が主体で18%増。はまちは54%の減少となった。平均価格では、まぐろ類は、まぐろの国内物が22%高、入荷増からきわだとめばちの国内物がそれぞれ14%安、18%安となり類計では4%安となった。まあじは22%高。さばは8%高。まいわしは30%安。するめいかは31%安。かつおは4%高。はまちは44%高となった。

図4-2 冷凍魚平均価格の動き



☆ 活魚	取扱数量	1,322 t (対前年比 97.0%)
	平均価格	1,562円 (" 50円高)

取扱数量では、あなごが9%減、かんぱちが7%増、すずきが22%減、はまちが60%減、またいが13%増となった。平均価格では、あなごが23%高、かんぱちが6%高、すずきが12%高、はまちが32%高、またいが12%安、たこが17%高となり、全体では3%高となった。

☆ 貝類	取扱数量	3,979 t (対前年比 101.6%)
	平均価格	928円 (" 18円高)

<生鮮貝類>

取扱数量では、あさりが11%増、あか貝が19%増、ほたて貝が43%減、さざえが17%増、あおやぎが19%減で、生鮮貝類全体では前年並み。平均価格では、あさりが3%安、しじみが6%安、あか貝が11%安、ほたて貝が14%高、さざえが6%安、あおやぎが25%高で生鮮貝類全体では前年並みとなった。

<冷凍貝類>

取扱数量は、4%減少。平均価格は、11%高となった。

☆ 冷凍魚	取扱数量	14,367 t (対前年比 90.7%)
	平均価格	1,159円 (" 72円高)

取扱数量では、まぐろ類は、めばちが供給減による高値の反動から12%減、印度まぐろも漁の端境期で13%減となり、きわだ30%増、ほんまぐろが6%増となったものの、類計では9%減となった。いか類は、もんこういかが加工筋の買いが持続した模様で37%増、類計でも10%増となった。かれい類は、からすかれいがアラスカ、ロシア産中心に2.2倍に増加、あさばかれいが22%増となり、類計では4%減。さけ・ます類は、在庫薄と高値が影響し、しろさけが59%減、べにさけが79%減、ぎんさけが50%減少し、ますのすけのみ94%増加、類計では半減した。えび類は、盆需要をにらんだ手当て買いが好調に推移、ブラックタイガーに加えホワイトタイガーの伸びが目立ち、扱い主力のインドネシア10%増、インドも48%増、北欧産主体のあかえびも41%増加、類計でも21%増となった。ぎんたらは、扱いの多かった前月の反動もあり6%減。たこは、末端消費が好調で堅調に推移し15%増。平均価格では、まぐろ類は、めばちが23%高、印度まぐろが5%高など全般に高く類計でも17%高。いか類は、するめいか(国内)が12%高、もんこういかが15%安、類計では8%安。かれい類は、あさばかれいが14%安、からすかれいが32%安、類計では前年並み。さけ・ます類は、しろさけが13%高、べにさけが22%高、ぎんさけが5

%高、類計でも11%高。えび類は、あかえびが16%安、インドネシアが18%安、インドが35%安と総じて安く、類計でも20%安となった。ぎんたらは5%高。さばは21%安。たこは21%安となった。

☆ 加工品	取扱数量	21,254 t (対前年比 100.6%)
	平均価格	768円 (// 2円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩あきさけが62%減、塩しろさけが27%減、塩べにさけが31%減、塩ぎんさけが43%減、いくら、〇(オー)157騒動で扱いが停滞した前年の2.2倍と例年並に回復、すけこが24%減、類計では25%減となった。塩干品類は、開干さんまが14%減、類計では前年並み。煮干製品類は、しらす干が24%増、類計でも10%増となった。焼物製品類は、蒲焼うなぎが79%増となり、類計でも60%増。素干品類は9%減。湯煮品類は、煮たこが16%増、類計でも7%増。平均価格では、塩蔵品類は、塩あきさけが59%高、塩しろさけが27%高、塩べにさけが10%高、塩ぎんさけが20%高、すけこが22%高となり、類計でも28%高となった。塩干品類は、開干さんまが12%高、類計では前年並み。煮干製品類は、しらす干が36%安、類計でも27%安となった。焼物製品類は、蒲焼うなぎが23%安、類計でも18%安。湯煮品類は、煮たこが16%安、類計でも13%安となった。

- 8月 -

☆ 鮮魚	取扱数量	14,503 t (対前年比 97.4%)
	平均価格	945円 (// 30円高)

取扱数量では、まぐろ類は、三陸巻き網漁から潤沢な入荷のあったまぐろの国内物が2.5倍と増え、めじも5.6倍、めばちの輸入物が15%減、類計では21%の増となった。まあじは、九州、紀州、東海物の中型を主体に18%減少。さばは、三陸、神奈川物を主体に22%増。まいわしは、近海物が主体で37%増。するめいかは、北海、青森物を主体に24%増となった。かつおは、三陸物の大型主体に13%減。はまちは55%減。さんまは、10日に棒受網漁が解禁し、20日に大型船(流し網漁)が出漁して本格的なシーズンを迎えるも漁況は低調に推移して40%減となった。平均価格では、まぐろ類は、まぐろの国内物が32%安、めじが16%安、めばちの輸入物が5%高、類計では8%安となった。まあじは40%高。さばは8%安。まいわしは23%安。するめいかは25%安。はまちは47%高。さんまは50%高となった。

☆ 活魚	取扱数量	1,210 t (対前年比 100.2%)
	平均価格	1,578円 (// 71円安)

取扱数量では、またいが22%増、かんぱちが4%増、すずきが10%減、はまちが63%減となった。平均価格では、あなごが15%安、またいが14%安、はまちが25%高、かんぱちが13%高となり、全体では4%安となった。

☆ 貝類	取扱数量	3,303 t (対前年比 95.9%)
	平均価格	959円 (// 10円高)

<生鮮貝類>

取扱数量では、あさがりが3%増、あか貝が7%増加し、ほたて貝が25%減、あおやぎが32%減、むきほたて貝が7%減となり、生鮮貝類全体では3%減となった。平均価格では、あおやぎが27%高、ほたて貝が9%高、しじみが5%安、あか貝が22%安、生鮮貝類全体では前年並みとなった。

<冷凍貝類>

取扱数量は、9%減少。平均価格は、7%高となった。

☆ 冷凍魚	取扱数量	12,433 t (対前年比 87.6%)
	平均価格	1,160円 (// 38円高)

取扱数量では、まぐろ類は、生鮮の出回り多く引き合いが減り、類計では15%減。減船などによる供給減からめばちが18%減、閉漁期の印度まぐろも18%減となった。いか類は、するめ(国内)が18%減、もんこういかが16%増、類計では3%減となった。かれい類は、あさばかれいが14%減、アラスカ産が集中したからすかれいが倍増し、類計では10%増となった。さけ・ます類は、在庫薄と高値続きが響き、しろさけが50%減、べにさけが66%減、ぎんさけも49%減、ますのすけだけが4.3倍増と好調な荷動きを示したが、類計では45%減となった。えび類は、インドネシアが16%減、インドが24%増、類計では5%減。かに類は、荷動きが好調で48%増。ぎんたらは30%減。たこは19%増となった。平均価格では、まぐろ類は、めばちが29%高、印度まぐろが5%高、類計でも19%高となった。いか類は、するめ(国内)が前年並み、もんこういかが19%安となり、類計では6%高。かれい類は、あさばかれいが9%安、からすかれいが15%安、類計でも3%高。さけ・ます類は、ますのすけが18%高、しろさけが12%高、べにさけが19%安、ぎんさけが3%安、類計では7%安となった。えび類は、インドネシアが20%安、インドが26%安となり類計でも16%安となった。かに類とぎんたらは前年並み。たこは25%安となった。

図5-1 加工品取扱数量の動き

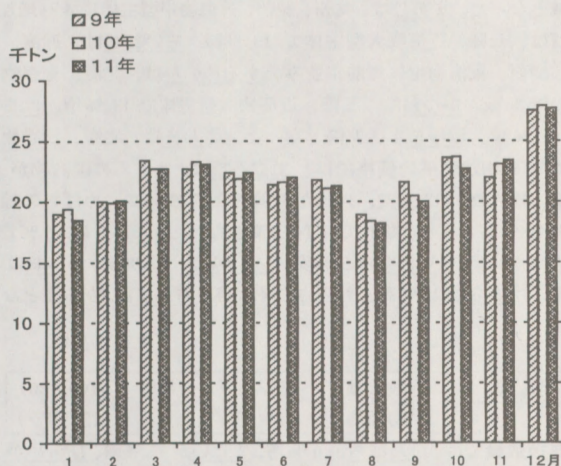
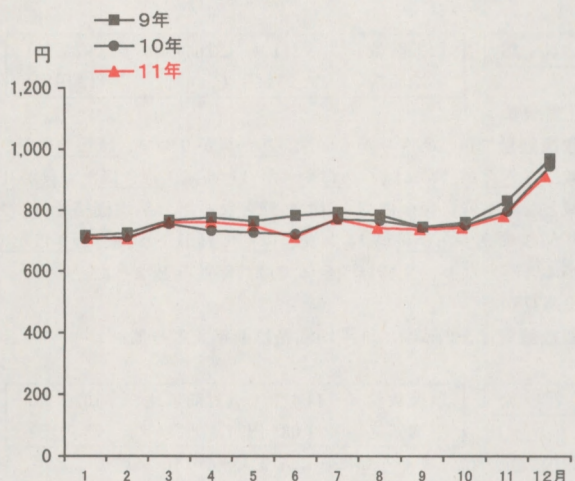


図5-2 加工品平均価格の動き



☆ 加工品	取扱数量	18,242 t (対前年比 98.9%)
	平均価格	738 円 (" 28 円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩あきさけが 52 % 減、塩しろさけが 40 % 減、塩ぎんさけが 31 % 減と大幅に落ち込み、塩べにさけのみ 20 % 増、いくらが 50 % 増、すけこが 29 % 減、類計では 14 % 減となった。塩干品類は、開干あじが 8 % 減、開干さんまが 15 % 減、類計でも 7 % 減。煮干製品類は、しらす干が 30 % 減、類計でも 28 % 減となった。焼物製品類は、蒲焼うなぎが倍増し、類計も 76 % 増。素干品類は、干するめ (国内) が 44 % 減、類計でも 30 % 減。湯煮品類は、煮たこが 22 % 増、類計でも 10 % 増となった。平均価格では、塩蔵品類は、塩あきさけが倍に値を上げ、塩しろさけが 18 % 高、塩ぎんさけが 4 % 高、塩べにさけが 5 % 安となり、いくらが 3 % 安、すけこが 22 % 高、類計では 20 % 高となった。塩干品類は、開干あじが 4 % 高、開干さんまが 13 % 高となり、類計では前年並み。煮干製品類は、しらす干が 27 % 安、類計でも 24 % 安。焼物製品類は、蒲焼うなぎが 29 % 安、類計でも 22 % 安。素干品類は、干するめ (国内) が 11 % 安、類計でも 5 % 安。湯煮品類は、煮たこが 19 % 安、類計でも 12 % 安となった。

- 9 月 -

☆ 鮮魚	取扱数量	18,984 t (対前年比 104.9%)
	平均価格	821 円 (" 47 円安)

取扱数量では、まぐろ類は、まぐろの国内物が 4.2 倍に増加、輸入物が 45 % 増。めばちの国内物が 21 % 増、輸入物が 25 % 減。きわだの国内物は 3.5 倍に増加、輸入は 56 % 減、印度まぐろ (輸入) が 57 % 減、類計では 25 % 増となった。まあじは、九州、紀州、近海物の中型を主体に入荷し 9 % 減少。さばは、八戸、三陸物の大型主体に 6 % 減。まいわしは、近海、常磐物を主体に前年並み。するめいかは、北海、青森物を主体に 15 % 増。はまちは 62 % 減。かつおは、三陸物の大型が主体で 55 % 増加した。さんまは、主漁場が昨年より北偏傾向にあり低調な漁が続いたが中旬以降漁況が上向き、不振だった前年より 8 % 増加した。平均価格では、まぐろ類は、まぐろの国内物が 44 % 安、輸入物が 17 % 安、きわだの国内物が 27 % 安、めばちの国内物が 7 % 安、類計でも 14 % 安となった。まあじは 9 % 高。さばは 8 % 高。まいわしは前年並み。するめいかは 28 % 安。はまちは 38 % 高。かつおは 22 % 安。さんまは 6 % 高となった。

☆ 活魚	取扱数量	1,220 t (対前年比 102.5%)
	平均価格	1,525 円 (" 168 円安)

取扱数量では、あなごが前年並み、かんばちが 6 % 増、またいが 10 % 増加し、はまちが 24 % 減少した。平均価格では、あなごが 24 % 安、すずきが 18 % 安、ひらめが 16 % 安、またいが 10 % 安となり、はまちが 18 % 高となったが、全体では 10 % 値を下げた。

☆ 貝類	取扱数量	3,311 t (対前年比 92.2%)
	平均価格	931 円 (" 12 円安)

<生鮮貝類>

取扱数量では、あさりが 6 % 減、あか貝が 9 % 減、ぼたて貝が 31 % 減、さざえが 11 % 減、あおやぎが 17 % 減、むきぼたて貝が 13 % 減となり生鮮貝類全体でも 10 % 減となった。平均価格では、あさりが 3 % 高、あか貝が 14 % 安、ぼたて貝が 7 % 高、むきぼたて貝が 4 % 高となり、生鮮貝類全体では前年並みとなった。

<冷凍貝類>

取扱数量は、5 % 増加。平均価格は前年並だった。

☆ 冷凍魚	取扱数量	14,421 t (対前年比 101.2%)
	平均価格	1,085 円 (" 23 円安)

取扱数量では、まぐろ類は、ほんまぐろが 16 % 増加したが、沖漁が振るわず供給の細っているめばちが 24 % 減、きわだも 11 % 減少となり、類計でも 16 % 減となった。いか類は、もんこういか

が 13 % 減、類計でも 9 % 減。かれい類は、あさばかれいが 12 % 増、からすかれいもアラスカ、アイスランド産の入荷増を受け 79 % 増、類計でも 17 % の増加。さけ・ます類は、生鮮物に押され低調な荷動きが続き、べにさけが 34 % 減、ぎんさけが 5 % 減。その中でますのすけが 62 % 増とした。類計では 15 % 減となった。えび類は、主力のインドネシアが生産減から 12 % 減、荷動きが好調なインドが 2.8 倍とし、類計では 21 % の増となった。かに類は 9 % 増。ぎんたらは 20 % 減。さばは 10 % 増。たこは、価格が一段と下落し好調な荷動きとなり 61 % 増。平均価格では、まぐろ類は、めばちが 33 % 高、ほんまぐろが 7 % 高、きわだは 66 % 高、類計でも 25 % 高となった。いか類は、するめ (国内) が 5 % 安、もんこういかは 13 % 安、類計でも 8 % 安。かれい類は、あさばかれいが 13 % 安、からすかれいが 21 % 安、類計では前年並み。さけ・ます類は、しろさけが 34 %、べにさけが 25 %、ぎんさけが 7 %、ますのすけが 18 % とそれぞれ値を下げ、類計でも 13 % 安となった。えび類は、インドネシアが 23 % 安、インドが 34 % 安、類計でも 17 % 安。かに類は 6 % 高。ぎんたらは前年並み。さばは 26 % 安。たこは 35 % 安となった。

☆ 加工品	取扱数量	19,979 t (対前年比 97.4%)
	平均価格	734 円 (" 9 円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩あきさけが 15 % 減、塩しろさけが 13 % 増、いくらが 56 % 増、すけこは 21 % 減、類計では前年並みとなった。塩干品類は、開干あじが 9 % 減、開干さんまが 22 % 減、類計でも 11 % 減。煮干製品類は、煮干いわしが 41 % 増、しらす干が 7 % 増、類計でも 10 % 増となった。焼物製品類は、蒲焼うなぎが 91 % 増、類計でも 58 % 増。素干品類は、干するめ (国内) が 36 % 減、類計でも 20 % 減。練製品類は 9 % 減少。湯煮製品類は、煮たこが 21 % 増、類計でも 6 % 増となった。平均価格では、塩蔵品類は、塩べにさけが 13 % 安となったが、塩あきさけが 24 % 高、塩しろさけが 19 % 高、いくららは前年並み、すけこが 26 % 高となり、類計でも 12 % 高となった。塩干品類は、開干さんまが 17 % 高、類計では前年並み。煮干製品類は、しらす干が 32 % 安、類計でも 29 % 安。焼物製品類は、蒲焼うなぎが 29 % 安、類計でも 19 % 安。素干品類は、干するめ (国内) が 5 % 安、類計でも 3 % 安。練製品類が 4 % 安。湯煮製品類は、煮たこが 23 % 安、類計でも 15 % 安となった。

- 10 月 -

☆ 鮮魚	取扱数量	19,043 t (対前年比 99.0%)
	平均価格	862 円 (" 19 円安)

取扱数量では、まぐろ類は、まぐろの輸入物が 44 % 増となったが、めばちの輸入物が 16 % 減、きわだの国内物が前年並みの入荷も扱いの多かった昨年との比較のため 74 % 減となり、類計でも 13 % 減となった。まあじは、九州、紀州、近海物中型主体に 4 % 増加。さばは、三陸、近海物大型主体で 13 % 減。まいわしは、近海、常磐、関西、東海物主体に前年並み。するめいかは、北海、青森物主体で 8 % 減。かつおは、三陸、近海物大型主体で 13 % 増。はまちは 61 % 減、わらさは 1.7 倍となった。さんまは、北海、三陸物主体で 4 % 増加。平均価格では、まぐろ類は、まぐろの国内物が 29 % 安、輸入物が 13 % 安、きわだの国内物が 33 % 高、めばちの輸入物が 10 % 高となり、類計では 14 % 高となった。まあじは 16 % 安。さばは 4 % 高。まいわしは 3 % 安。するめいかは 6 % 安。かつおは 19 % 高。はまちは 23 % 高、わらさが 4 % 高。さんまは 16 % 高となった。

☆ 活魚	取扱数量	1,307 t (対前年比 100.7%)
	平均価格	1,504 円 (" 152 円安)

取扱数量では、かんばちが 6 % 増、またいが 11 % 増、ひらめが 22 % 増加し、すずきが 15 % 減、はまちが 47 % 減、たこが 10 % 減となった。平均価格では、あなごが 13 % 安、すずきが 8 % 安、はま

ちが8%高、またいが13%安、ひらめが20%安、たこが11%安となり全体では9%安となった。

☆ 貝類	取扱数量	4,863 t (対前年比	94.8%)
	平均価格	904円 ("	27円安)

<生鮮貝類>

取扱数量では、あさりが増、あか貝が増。1日に初せりを行いシーズンを迎えたむきかきは3%の増加。しじみが10%減、ほたて貝が25%減、あおやぎが14%減、むきほたて貝が15%減となり、生鮮貝類全体では4%減となった。平均価格では、あさが7%安、あか貝が30%安、あおやぎが8%安、むきかきは、ほぼ前年並み、ほたて貝が13%高、むきほたて貝が7%高となり、生鮮貝類全体では4%安となった。

取扱数量は、14%減少。平均価格は、8%高となった。

☆ 冷凍魚	取扱数量	15,208 t (対前年比	104.4%)
	平均価格	1,118円 ("	5円高)

取扱数量では、まぐろ類は、ほんまぐろが12%減、めばちが8%減、印度まぐろも8%減となり、類計でも11%減となった。いか類は、もんこういか加工向け主体に扱いが膨らみ57%増、類計でも11%の増加。かれい類は、あさばかれいが18%増、からすかれいが45%増、類計でも25%の増。さけ・ます類は、しろさけが63%増、ぎんさけが16%増、ますのすけも36%増とさけは総じて増えたが、ますが81%減となり、類計では6%の増となった。えび類は、あかえびが22%減となったが、インドネシアが20%増、インドが5.6倍と9月に引き続き順調に推移し、類計でも36%増。かに類は17%増。ぎんたらは74%増。さばは、新物の入荷を控え買い見送られ19%減。たこは、末端消費も好調で26%増となった。平均価格では、まぐろ類は、ほんまぐろが14%高、きわだが51%高、めばちが24%高、類計も15%高となった。いか類は、もんこういか加工向けが31%安、類計でも17%安。かれい類は、あさばかれいが10%安、類計でも6%安。さけ・ます類は、しろさけが32%安、べにさけが33%安、類計でも14%安。えび類は、あかえびが10%高、インドネシアが6%安、インドが17%安、類計では4%安。かに類は16%高。ぎんたらは5%高。さばは19%安。たこは39%安となった。

☆ 加工品	取扱数量	22,666 t (対前年比	95.8%)
	平均価格	738円 ("	13円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩あきさけが28%増、塩べにさけが32%増となり、塩しろさけが45%減少、いくらが45%増、すけこが18%減となり、類計では4%増。塩干品類は、開干あじが15%減、開干さんまが30%減、類計でも9%減となった。煮干製品類は、しらす干が27%減、類計でも25%減。焼物製品類は、蒲焼うなぎが2.6倍となり、類計でも倍増した。練製品類は4%減。素干品類は、干するめ(国内)が34%減、類計でも14%の減少。湯煮品類は、煮たこが26%増、類計でも8%の増加。平均価格では、塩蔵品類は、塩あきさけが10%高、塩しろさけが15%高、塩べにさけが19%安、いくらが4%高、すけこが18%高となり、類計では9%高となった。塩干製品類は、開干あじが4%高、開干さんまが12%高、類計では前年並み。煮干製品類は、しらす干が34%安、類計でも24%安となった。焼物製品類は、蒲焼うなぎが45%安、類計でも35%安。素干品類は、干するめ(国内)が5%安、類計でも5%安。練製品類は、揚物が10%安、類計でも5%安。湯煮品類は、煮たこが27%安、類計でも16%安となった。

- 11月 -

☆ 鮮魚	取扱数量	17,636 t (対前年比	108.2%)
	平均価格	937円 ("	28円安)

取扱数量では、まぐろ類は、まぐろの国内物が79%増、輸入物が29%増、めばちの国内物が11%増、びんなが倍増となったが、

類計では前年並み。まあじは、近海、九州物の中型が主体で11%増。さばは、三陸、日本海物が主体で10%増。まいわしは、近海、三陸、関西物が主体で6%増。するめいかは、北海、青森物が主体で73%の増加。はまちは33%減。さんまは、北海、三陸物主体で7%の減少。11月末で終漁となったが2年連続の不漁となった。平均価格では、まぐろ類は、めばちの輸入物が4%高、印度まぐろが24%高、めじが22%高、まぐろの国内物が35%安となり、類計では5%高。まあじは11%安。さばは7%高。まいわしは前年並み。するめいかは33%安。はまちは15%高。さんまは12%高となった。

☆ 活魚	取扱数量	1,398 t (対前年比	105.4%)
	平均価格	1,376円 ("	56円安)

取扱数量では、かんぱちが17%増、またいが20%増、ひらめが24%増、たこが22%増となり、はまちは29%減となった。平均価格では、はまちは4%高、かんぱちとまたいが6%安、ひらめが16%安、たこが7%安となり、全体では4%安となった。

☆ 貝類	取扱数量	5,198 t (対前年比	102.2%)
	平均価格	936円 ("	33円安)

<生鮮貝類>

取扱数量では、あさが12%増、あか貝が40%増、むきかきが8%増となり、ほたて貝が9%減、むきほたて貝が10%減、生鮮貝類全体では3%増となった。平均価格では、あさが6%安、あか貝が37%安、むきかきが9%安、むきほたて貝が10%高となり、生鮮貝類全体では5%安となった。

<冷凍貝類>

取扱数量は、6%減少。平均価格は、7%高となった。

☆ 冷凍魚	取扱数量	14,763 t (対前年比	100.1%)
	平均価格	1,134円 ("	48円高)

取扱数量では、まぐろ類は、きわだが18%増、めばちがわずかだが今年に入り初めて前年を上回り3%増、ほんまぐろが5%減、類計では前年並みとなった。いか類は、するめ(国内)が、生鮮物の出回り多く21%減、もんこういか加工向けが28%減、類計でも7%減。かれい類は、からすかれいが小型中心のノルウェー産主体に2.8倍、類計では8%減。さけ・ます類は、べにさけが18%減、ぎんさけが30%減少し、しろさけが32%増えたが、類計でも5%減となった。えび類は、あかえびが17%減、インドネシアが9%増、インドが65%増、類計では15%の増加。かに類は、先月まで好調だった加工筋の買いが細り煮たらばが30%減、煮ずわいが42%減、類計でも16%減となった。ぎんたらは50%増。さばは7%減。たこは、順調な漁獲と値下がり引き続き活発な荷動きとなり20%増となった。平均価格では、まぐろ類は、ほんまぐろが21%高、めばちが13%高、きわだも33%高とし、類計でも8%高となった。いか類は、するめ(国内)が24%安、もんこういか加工向けが11%安、類計でも7%安。さけ・ます類は、しろさけが16%高、ぎんさけが5%高、べにさけが32%安、類計では8%安となった。えび類は、インドが8%安、インドネシアが4%安、類計では前年並み。かに類は、煮たらばが34%高、煮ずわいが26%高、類計でも20%高。ぎんたらは14%高。さばは11%安。たこも38%安となった。

☆ 加工品	取扱数量	23,375 t (対前年比	101.4%)
	平均価格	775円 ("	20円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩あきさけが漁獲の振るわいことから11%減、塩べにさけが95%増、塩ぎんさけが17%増、塩かずのこが28%減、類計では3%増となった。塩干品類は、丸干いわしが37%増、開干さんまが8%減、類計では前年並み。煮干製品類は、煮干いわしが24%減、類計でも10%減。焼物製品類は、蒲焼うなぎが2.3倍、類計でも倍増した。素干品類は、干するめ(国

内)が22%減、類計でも8%減。練製品類は、揚物が9%増、類計でも3%増。湯煮品類は、煮たこが31%増、類計でも21%増となった。平均価格では、塩蔵品類は、塩あきさけが9%安、塩べにさけが20%安、塩ざんさけが6%安、すじこが11%高、いくらが18%高、類計では4%高となった。塩干品類は、丸干いわしが7%安、類計では前年並み。煮干製品類は、煮干いわしが5%高、しらす干が35%安、類計では22%安となった。焼物製品類は、蒲焼うなぎが38%安、類計でも29%安。素干品類は、干するめ(国内)が6%安、類計でも8%安。練製品類は、揚物が8%安、類計では3%安。湯煮品類は、煮たこが29%安、類計でも15%安となった。

— 12月 —

☆ 鮮魚	取扱数量	17,506 t (対前年比 102.9%)
	平均価格	1,158円 (# 24円安)

取扱数量では、まぐろ類は、まぐろの輸入物が38%増、めばちの輸入物が5%増、国内物が13%減、びんながが51%増、類計では13%の増加となった。まあじは、近海、九州物の中型主体に前年並み。さばは、九州、日本海、近海物主体で4%減。まいわしは、近海、関西、三陸、東海物を主体に11%増。するめいかは、北海、青森、九州物主体で36%増。はまちは19%減少となった。平均価格では、まぐろ類は、まぐろの国内物が51%安、輸入物が10%安、めばちの国内物が14%安、輸入物が5%安となり、びんながが20%高となったが、類計では10%安。まあじは6%高。さばは7%高。まいわしは3%安。するめいかは28%安。はまちは13%高となった。

☆ 活魚	取扱数量	1,758 t (対前年比 102.6%)
	平均価格	1,423円 (# 15円安)

取扱数量では、はまちが31%減少し、かんぱちとまたいが19%増、たこが27%増となった。平均価格では、あなごが8%高、はまちが6%高、またいが9%安、たこが27%安となり、全体では前年並みとなった。

☆ 貝類	取扱数量	5,800 t (対前年比 98.2%)
	平均価格	982円 (# 4円高)

<生鮮貝類>

取扱数量では、あさりが4%増、しじみが5%減、ほたて貝が11%減、むきかきが5%減、むきほたて貝が17%減少し、生鮮貝類全体では4%減となった。平均価格では、あさりとしじみが5%安、あか貝が15%安、ほたて貝が4%安、むきかきが7%高、むきほたて貝が18%高となり、生鮮貝類全体では前年並み。

<冷凍貝類>

取扱数量は、13%増加。平均価格は、前年並みとなった。

☆ 冷凍魚	取扱数量	19,147 t (対前年比 103.3%)
	平均価格	1,245円 (# 2円高)

取扱数量は、まぐろ類は、ほんまぐろが在庫薄から9%減、めばちが3%増、類計では前年並み。いか類は、するめいか(国内)が単価安から扱いが促され30%増、もんこういかが在庫薄などから40%減、類計では27%増となった。かれい類は、からすかれいがノルウェー産加工向け主体に3倍に膨らみ、類計でも21%増。さけ・ます類は、しろさけが18%減、べにさけが8%増、ぎんさけが5%増、類計では前年並み。えび類は、円高による値下がりや年末需要から扱いを伸ばした。加工筋の引き合いも強まったインドが倍増、あかえびも28%増、主力のインドネシアが9%減、類計では9%増。かに類は、煮たらばが19%減、煮ずわいが24%増となり、類計では6%減。ぎんたらは、前月に引き続き好調な末端消費に支えられ30%の増加。たこは、依然好調で26%増。平均価格では、まぐろ類は、ほんまぐろが29%高、きわだが24%高、めばちが7%高、類計でも6%高となった。いか類は、するめ(国内)が31%安、もんこういかが8%安、類計でも11%安。かれい類は、

からすかれいが29%安、類計では12%高。さけ・ます類は、しろさけが7%高、べにさけが31%安、類計では8%安となった。えび類は、あかえびが11%安、インドネシアが5%安、インドが7%安、類計でも5%安。かに類は、煮たらばが18%高、煮ずわいも5%高、類計でも12%高。ぎんたらは20%高。さばは14%安。たこは36%安となった。

☆ 加工品	取扱数量	27,741 t (対前年比 99.3%)
	平均価格	905円 (# 39円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩あきさけが9%増、塩べにさけが76%増、塩ざんさけが25%増、塩しろさけが38%減、すけこが35%減、いくらが30%減となり、類計では6%減少した。塩干品類は、丸干いわしが30%増、開干さんまが21%減、類計では7%減となった。煮干製品類は、煮干いわしが9%減、しらす干が11%増、類計では前年並み。焼物製品類は、蒲焼うなぎが78%増、類計でも53%増。素干品類は4%減。練製品類は、揚物が10%増、類計でも4%増。湯煮品類は、煮たこが15%増、類計でも4%増となった。平均価格では、塩蔵品類は、塩あきさけが17%安、塩べにさけが32%安、塩ざんさけが8%安、塩しろさけが11%高となり、すけこが33%高、いくらが22%高、類計では前年並みとなった。塩干品類は、丸干いわしが9%安、開干さんまが8%高、類計では前年並み。煮干製品類は、煮干いわしが22%高、しらす干が33%安となり、類計では20%安。焼物製品類は、蒲焼うなぎが37%安、類計でも28%安。素干品類は、干するめ(国内)が7%安、類計でも5%安。練製品類は、かまぼこが6%安、揚物が8%安、類計でも5%安。湯煮品類は、煮たこが26%安、類計でも15%安となった。

2 主要品目の取扱高

(1) まぐろ類

生鮮物は、取扱数量が前年比15%の増加で18,905 t、平均価格では、125円安の1,525円となった。品目別に比較すると、取扱数量では、まぐろの国内物が、三陸沖合のまき網漁が好漁で前年を大幅に上回る水揚げを記録したことにより、潤沢な入荷が続き2.1倍となった。めじも同様に46%増。輸入物は18%の増加。きわだの国内物が47%増、めばちの国内物も12%増となったが輸入物は12%減少。平均価格では、まぐろの国内物が1,214円安の2,210円、輸入物が82円安の3,457円、きわだの国内物が165円安の667円、めばちの国内物が141円安の1,993円、輸入物が14円高の1,486円となった。

冷まぐろ類は、取扱数量が前年比8%の減少で53,034 t、平均価格では、182円高の1,599円となった。品目別には、きわだが取扱数量を30%伸ばしたが、めばちが12%減とした。平均価格では、ほんまぐろが341円高の3,068円、きわだが189円高の864円、めばちが183円高の1,174円となった。

(2) かつお

取扱数量は、前年比5%の増加で13,510 t、平均価格では、39円高の577円となった。漁況が5月上旬頃まで低調だったことで入荷が伸びなかったが、まき網によるまとまった水揚げが見られるようになり入荷も増加した。9月には、三陸近海に主漁場が形成され竿釣り主体に今年最高の水揚げとなったことを受け、入荷も本年最高となった。

(3) はまち

取扱数量は、前年比33%の減少で7,855 t、平均価格では、153円高の1,075円となった。2月以降は毎月前年を下回る入荷が続き、過去20年で最低の入荷量となった。

(4) まあじ

取扱数量は、前年比2%の増加で19,965 t、平均価格では、5円高の525円となった。前半は前年を上回る入荷が続いたが、7月から9月までは前年を下回る入荷となり価格も高値で推移した。後半になると再び前年を上回る入荷があり、過去20年

で最高の入荷量となった。

(5) まいわし

取扱数量は、前年比13%の増加で11,442 t、平均価格では、84 円安の 377 円となった。2月以降は毎月前年を上回る入荷が続き、特に7月～8月は、北部太平洋近海での好漁が目立ち、大きく前年を上回る入荷となった。

(6) するめいか

生鮮物は、取扱数量が前年比25%の増加で15,047 t、平均価格では、113 円安の 453 円となった。不漁だった前年をほぼ毎月上回る入荷となり、特に6月以降は、日本海での好漁を反映し前年を大きく上回る入荷が続いた。

冷凍物は、取扱数量が前年比15%の減少で4,277 t、平均価格では、34 円高の 297 円となった。12月を除き毎月前年を下回る扱いとなった。

(7) さば

生鮮物は、毎月前年並みの順調な入荷があり、取扱数量は前年並みの10,540 tと2年続けて1万トンを上回った。平均価格では、14 円高の 506 円となった。

冷凍物は、取扱量が前年比6%の増加で5,279 t、平均価格では、71%円安の345円となった。

(8) さんま

取扱数量が前年比14%の減少で10,104 t、平均価格では、123 円高の 630 円となった。解凍物は昨年の不漁の影響で7月まで前年を下回る入荷が続いた。8月から本格的な新物の入荷がはじまったが、魚群の南下が遅く主漁場の北偏傾向が続いたため不安定な漁況となり、前年を下回る入荷となった。9月、10月は前年を上回ったが、2年連続の不漁となり、新物全体の入荷も前年を下回った。

(9) さけ・ます類

生鮮物は、取扱数量が前年比9%の増加で8,496 t、平均価格では、35 円安の 781 円となった。品目別には、しろさけが15%減、ますが40%減となったが、輸入さけ・ますが19%増加した。平均価格は、しろさけが27 円高の 545 円、ますが330 円高の1,131 円、輸入さけ・ますが115 円安の 820 円となった。

冷凍物は、取扱数量が前年比15%の減少で20,948 t、平均価格では、36 円高の 709 円となった。品目別には、しろさけが36%増、ますのすけが79%増となったが、べにさけが45%減、ぎんさけが24%の減少となった。平均価格は、しろさけが12 円高の 415 円、べにさけが55 円安の1,019 円、ぎんさけが96 円高の 737 円、ますのすけが37 円安の 691 円となった。

(10) えび類

生鮮物は、取扱数量が前年比1%の増加で2,683 t、平均価格では、120 円安の 2,877 円となった。品目別には、むきえびが10%増、しばえびが51%増、まきえびが16%の減となった。平均価格では、まきえびが705 円高の 6,084 円、しばえびが493 円安の 841 円、むきえびが50 円安の1,391 円となった。

冷凍物は、取扱数量が前年比9%の増加で20,591 t、平均価格では、234 円安の1,618 円となった。品目別には、あかえびが前年並み、インドネシア産が前年並み、インド産が53%の増加となった。平均価格では、あかえびが21 円安の1,222 円、インドネシア産が312 円安の1,610 円、インド産が556 円安の1,599 円となった。

(11) 加工品

取扱数量は、前年並みの262,096 t、平均価格では、7 円安の 758 円となった。

塩蔵品類では、さけ類が軒並み扱いを減らし、魚卵類はいくらが22%増加したが、類計では7%減少し35,759 t、平均価格は、148 円高の1,488 円となった。

塩干品類では、開干あじが6%減、開干さんまが17%減少し、類計では7%減少し、平均価格は、5 円高の 547 円となった。

煮干製品類では、しらす干が32%増、煮干いわしが10%減少し、類計では14%増加し15,501 t、平均価格は、159 円安の1,075 円となった。

焼物製品類では、蒲焼うなぎが40%増、白焼うなぎが倍増し、類計では、28%増の7,948 tとなった。平均価格では、蒲焼うなぎが400 円安の1,610 円、白焼うなぎが517 円安の1,351 円、類計では228 円安の1,416 円となった。

素干品類では、干するめ(国内)が31%減、身欠にしんが17%減少し、類計では、13%減の7,308 tとなった。平均価格では、31 円安の1,115 円となった。

練製品類では、取扱数量が3%減の41,915 t、平均価格が19 円安の517 円となった。

湯煮品類では、煮たこが15%増加、類計では6%増の9,678 t、平均価格では、煮たこが262 円安の1,042 円、類計では、126 円安の1,017 円となった。

3 市場別取扱高

(1) 築地市場

総取扱数量は628,651 tで前年比101% (6,118 t増)と増加、総取扱金額は、584,996 百万円で前年比100% (2,340 百万円増)と前年並みとなった。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が5% (7,656 t) 増加し163,687 t、活魚が5% (706 t) 増加し14,527 t、貝類が2% (853 t) 減少し45,923 t、冷凍魚が前年並み (793 t減) で160,406 t、淡水魚が9% (224 t) 減少し2,363 t、海藻類が3% (236 t) 減少し6,707 t、加工品が前年並み (139 t減) で235,037 tとなった。取扱金額は、鮮魚が2% (2,748 百万円) 増加し159,922 百万円、活魚が1% (174 百万円) 減少し20,955 百万円、貝類が前年並み (27 百万円減) で42,732 百万円、冷凍魚が1% (2,143 百万円) 増加し179,505 百万円、淡水魚が14% (544 百万円) 減少し3,245 百万円、海藻類が1% (40 百万円) 増加し3,001 百万円、加工品が1% (1,846 百万円) 減少し175,637 百万円となった。

(2) 足立市場

総取扱数量は50,661 tで前年比96% (1,944 t減)と減少、総取扱金額は、43,250 百万円で前年比96% (1,780 百万円減)と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が5% (673 t) 増加し15,138 t、活魚が10% (61 t) 減少し560 t、貝類が14% (751 t) 減少し4,614 t、冷凍魚が6% (737 t) 減少し10,650 t、淡水魚が7% (17 t) 減少し220 t、海藻類が17% (120 t) 減少し586 t、加工品が5% (932 t) 減少し18,892 tとなった。取扱金額は、鮮魚が前年並み (10 百万円増) で12,108 百万円、活魚が11% (104 百万円) 減少し798 百万円、貝類が9% (367 百万円) 減少し3,718 百万円、冷凍魚が1% (141 百万円) 減少し10,871 百万円、淡水魚が14% (43 百万円) 減少し267 百万円、海藻類が16% (49 百万円) 減少し266 百万円、加工品が7% (1,085 百万円) 減少し15,222 百万円となった。

(3) 大田市場

総取扱数量は36,861 tで前年比92% (3,381 t減)と減少、総取扱金額は、34,249 百万円で前年比92% (3,014 百万円減)と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が10% (1,849 t) 減少し16,281 t、活魚が5% (70 t) 減少し1,256 t、貝類が3% (81 t) 減少し2,451 t、冷凍魚が10% (954 t) 減少し8,140 t、淡水魚が15% (35 t) 減少し196 t、海藻類が10% (42 t) 減少し370 t、加工品が4% (350 t) 減少し8,167 tとなった。取扱金額は、鮮魚が9% (1,330 百万円) 減少し13,320 百万円、活魚が5% (97 百万円) 減少し1,668 百万円、貝類が8% (168 百万円) 減少し2,052 百万円、冷凍魚が13% (1,274 百万円) 減少し8,842 百万円、淡水魚が29% (98 百万円) 減少し241 百万円、海藻類が5% (14 百万円) 減少し270 百万円、加工品が前年並み (35 百万円減) で7,856 百万円となった。

4 卸売業者別取扱高

(1) 築地市場

① 大都魚類(株)

総取扱数量は128,389 tで前年比103% (3,754 t増)と増加、総取扱金額は、118,894百万円で前年比99% (619百万円減)と減少となった。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が6% (1,773 t)増加し33,360 t、活魚が5% (196 t)増加し3,794 t、貝類が1% (72 t)増加し13,757 t、冷凍魚が4% (1,980 t)増加し50,093 t、淡水魚が10% (60 t)減少し526 t、海藻類が前年並み(3 t減)で602 t、加工品が1% (205 t)減少し26,257 tとなった。取扱金額は、鮮魚が1% (388百万円)増加し32,864百万円、活魚が2% (127百万円)減少し5,475百万円、貝類が4% (414百万円)増加し11,586百万円、冷凍魚が前年並み(158百万円減)で46,927百万円、淡水魚が20% (179百万円)減少し736百万円、海藻類が1% (2百万円)減少し306百万円、加工品が4% (954百万円)減少し21,001百万円となった。

② 中央魚類(株)

総取扱数量は129,942 tで前年比100% (351 t減)と前年並み、総取扱金額は、143,678百万円で前年比101% (1,701百万円増)と増加した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が8% (3,266 t)増加し44,558 t、活魚が4% (148 t)増加し3,854 t、貝類が1% (89 t)減少し9,504 t、冷凍魚が7% (3,093 t)減少し43,134 t、淡水魚が18% (125 t)減少し572 t、海藻類が13% (175 t)減少し1,214 t、加工品が1% (282 t)減少し27,106 tとなった。取扱金額は、鮮魚が4% (1,429百万円)増加し41,985百万円、活魚が2% (90百万円)増加し5,615百万円、貝類が1% (119百万円)減少し9,333百万円、冷凍魚が1% (822百万円)減少し57,793百万円、淡水魚が19% (166百万円)減少し685百万円、海藻類が8% (55百万円)減少し612百万円、加工品が5% (1,343百万円)増加し27,654百万円となった。

③ 東都水産(株)

総取扱数量は119,607 tで前年比103% (3,591 t増)と増加、総取扱金額は、123,607百万円で前年比102% (1,996百万円増)と増加した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が6% (1,964 t)増加し36,376 t、活魚が10% (251 t)増加し2,809 t、貝類が5% (386 t)増加し7,863 t、冷凍魚が3% (1,162 t)増加し37,537 t、淡水魚が前年並み(1 t増)で436 t、海藻類が4% (29 t)減少し646 t、加工品が前年並み(144 t減)で33,940 tとなった。取扱金額は、鮮魚が1% (207百万円)増加し40,172百万円、活魚が3% (130百万円)増加し4,049百万円、貝類が7% (495百万円)増加し7,896百万円、冷凍魚が3% (1,278百万円)増加し40,189百万円、淡水魚が8% (53百万円)減少し574百万円、海藻類が1% (4百万円)減少し366百万円、加工品が前年並み(57百万円減)で30,362百万円となった。

④ 築地魚市場(株)

総取扱数量は118,728 tで前年比100% (327 t減)と前年並み、総取扱金額は、98,267百万円で前年比101% (1,021百万円増)と増加した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が2% (660 t)増加し33,065 t、活魚が4% (145 t)増加し3,830 t、貝類が6% (493 t)減少し7,458 t、冷凍魚が1% (314 t)減少し21,698 t、淡水魚が8% (50 t)減少し567 t、海藻類が1% (17 t)減少し1,206 t、加工品が1% (256 t)減少し50,905 tとなった。取扱金額は、鮮魚が3% (850百万円)増加し29,740百万円、活魚が4% (212百万円)減少し5,576百万円、貝類が4% (299百万円)減少し6,672百万円、冷凍魚が9% (2,125百万円)増加し24,763百万円、淡水魚が14% (139百万円)減少し855百万円、海藻類が前年並み(2百万円減)で500百万円、加工品が4% (1,302百万円)減少し30,162百万円となった。

⑤ 第一水産(株)

総取扱数量は50,778 tで前年比100% (142 t増)と前年並み、総取扱金額は、45,393百万円で前年比98% (800百万円減)と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が前年並み(6 t減)で16,329 t、活魚が12% (32 t)減少し241 t、貝類が9% (728 t)減少し7,342 t、冷凍魚が6% (529 t)減少し7,944 t、淡水魚が4% (9 t)増加し261 t、海藻類が25% (236 t)減少し709 t、加工品が10% (1,664 t)増加し17,952 tとなった。取扱金額は、鮮魚が1% (125百万円)減少し15,162百万円、活魚が19% (54百万円)減少し241百万円、貝類が7% (519百万円)減少し7,245百万円、冷凍魚が3% (281百万円)減少し9,832百万円、淡水魚が2% (7百万円)減少し395百万円、海藻類が8% (19百万円)減少し208百万円、加工品が2% (206百万円)増加し12,310百万円となった。

⑥ 丸千代田水産(株)

総取扱数量は68,444 tで前年比101% (595 t増)と増加、総取扱金額は、43,994百万円で前年比100% (80百万円減)と前年並みとなった。大分類別に比較すると、取扱数量は、海藻類が11% (234 t)増加し2,276 t、加工品が1% (360 t)増加し66,167 tとなった。取扱金額は、海藻類が12% (104百万円)増加し938百万円、加工品が前年並み(184百万円減)で43,056百万円となった。

⑦ 総合食品(株)

総取扱数量は12,764 tで前年比91% (1,286 t減)と減少、総取扱金額は、11,164百万円で前年比93% (878百万円減)と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、海藻類が15% (9 t)減少し54 t、加工品が9% (1,276 t)減少し12,710 tとなった。取扱金額は、海藻類が34% (18百万円)増加し71百万円、加工品が7% (896百万円)で11,093百万円となった。

(2) 足立市場

① 東京北魚(株)

総取扱数量は19,376 tで前年比98% (373 t減)と減少、総取扱金額は、15,987百万円で前年比99% (126百万円減)と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が18% (674 t)増加し4,464 t、活魚が30% (68 t)減少し159 t、貝類が23% (504 t)減少し1,694 t、冷凍魚が1% (29 t)増加し3,878 t、淡水魚が4% (3 t)減少し72 t、海藻類が20% (49 t)減少し199 t、加工品が5% (452 t)減少し8,910 tとなった。取扱金額は、鮮魚が12% (370百万円)増加し3,453百万円、活魚が31% (101百万円)減少し220百万円、貝類が10% (154百万円)減少し1,426百万円、冷凍魚が7% (251百万円)増加し4,068百万円、淡水魚が17% (16百万円)減少し77百万円、海藻類が17% (21百万円)減少し105百万円、加工品が6% (455百万円)減少し6,638百万円となった。

② 大都魚類(株)千住支社

総取扱数量は16,928 tで前年比97% (548 t減)と減少、総取扱金額は、14,404百万円で前年比96% (576百万円減)と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が5% (269 t)増加し5,670 t、活魚が9% (15 t)増加し194 t、貝類が9% (139 t)減少し1,405 t、冷凍魚が12% (540 t)減少し3,814 t、淡水魚が4% (2 t)減少し67 t、海藻類が10% (21 t)減少し186 t、加工品が2% (131 t)減少し5,592 tとなった。取扱金額は、鮮魚が3% (127百万円)減少し4,512百万円、活魚が1% (4百万円)増加し276百万円、貝類が7% (85百万円)減少し1,168百万円、冷凍魚が8% (302百万円)増加し3,671百万円、淡水魚が7% (6百万円)減少し83百万円、海藻類が1% (1百万円)減少し76百万円、加工品が1% (59百万円)減少し4,618百万円となった。

③ 中央魚類(株)千住支社

総取扱数量は14,357 tで前年比93% (1,022 t減)と減少、総取扱金額は、12,860百万円で前年比92% (1,077百万円減)と減

少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が5% (270 t) 減少し5,004 t、活魚が4% (10 t) 減少し206 t、貝類が7% (107 t) 減少し1,516 t、冷凍魚が7% (226 t) 減少し2,958 t、淡水魚が12% (11 t) 減少し82 t、海藻類が20% (50 t) 減少し201 t、加工品が7% (349 t) 減少し4,390 tとなった。取扱金額は、鮮魚が5% (232 百万円) 減少し4,144 百万円、活魚が2% (6 百万円) 減少し303 百万円、貝類が10% (129 百万円) 減少し1,123 百万円、冷凍魚が3% (88 百万円) 減少し3,133 百万円、淡水魚が17% (22 百万円) 減少し106 百万円、海藻類が24% (27 百万円) 減少し85 百万円、加工品が13% (572 百万円) 減少し3,966 百万円となった。

(3) 大田市場

①東京大田魚市場(株)

総取扱数量は21,195 tで前年比96% (952 t減)と減少、総取扱金額は、20,367 百万円で前年比96% (927 百万円減)と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が5% (476 t) 減少し10,006 t、活魚が7% (21 t) 増加し350 t、貝類が5% (67 t) 減少し1,200 t、冷凍魚が4% (240 t) 減少し5,125 t、淡水魚が20% (24 t) 減少し92 t、海藻類が8% (17 t) 減少し188 t、加工品が3% (151 t) 減少し4,234 tとなった。取扱金額は、鮮魚が5% (473 百万円) 減少し8,814 百万円、活魚が2% (8 百万円) 増加し490 百万円、貝類が7% (89 百万円) 減少し1,100 百万円、冷凍魚が1% (78 百万円) 減少し5,510 百万円、淡水魚が40% (72 百万円) 減少し110 百万円、海藻類が1% (3 百万円) 減少し196 百万円、加工品が5% (221 百万円) 減少し4,146 百万円となった。

②大都魚類(株)大田支社

総取扱数量は15,666 tで前年比87% (2,429 t減)と減少、総取扱金額は、13,882 百万円で前年比87% (2,087 百万円減)と減少した。大分類別に比較すると、取扱数量は、鮮魚が18% (1,373 t) 減少し6,275 t、活魚が9% (91 t) 減少し906 t、貝類が1% (14 t) 減少し1,251 t、冷凍魚が19% (715 t) 減少し3,015 t、淡水魚が10% (11 t) 減少し104 t、海藻類が12% (26 t) 減少し182 t、加工品が5% (199 t) 減少し3,933 tとなった。取扱金額は、鮮魚が16% (857 百万円) 減少し4,506 百万円、活魚が8% (105 百万円) 減少し1,178 百万円、貝類が8% (80 百万円) 減少し951 百万円、冷凍魚が26% (1,196 百万円) 減少し3,332 百万円、淡水魚が16% (25 百万円) 減少し132 百万円、海藻類が13% (11 百万円) 減少し74 百万円、加工品が5% (187 百万円) 増加し3,710 百万円となった。

5 買付比率

全体の買付比率は、取扱数量が51.0%と前年を1.9ポイント上回り、取扱金額が50.9%と前年を1ポイント上回った。市場別では、築地市場が取扱数量で51.2%と前年を2ポイント上回り、取扱金額で50.1%と前年を1.1ポイント上回った。足立市場が取扱数量で44.9%と前年を0.6ポイント上回り、取扱金額で52.6%と前年を0.4ポイント上回った。大田市場が取扱数量で55.1%と前年を1.2%上回り、取扱金額で61.8%と前年を0.8ポイント上回った。

卸売業者別には次の表のとおり

卸売業者別買付比率

	取扱数量			取扱金額		
	平成11年	平成10年	差	平成11年	平成10年	差
総計	51.0	49.1	1.9	50.9	49.9	1.0
(築地市場)	51.2	49.2	2.0	50.1	49.0	1.1
大都魚類	50.3	47.2	3.1	47.8	46.4	1.4
中央魚類	48.7	48.8	-0.1	49.7	49.1	0.6
東都水産	47.8	46.1	1.7	46.7	45.5	1.2
築地魚市場	42.5	39.1	3.4	40.9	39.6	1.3
第一水産	40.3	38.2	2.1	44.2	42.8	1.4
丸千代田水産	86.9	84.4	2.5	89.7	88.3	1.4
総合食品	52.2	52.8	-0.6	67.1	66.2	0.9
(足立市場)	44.9	44.3	0.6	52.6	52.2	0.4
東京北魚	44.4	42.8	1.6	57.9	56.7	1.2
大都魚類・千住	46.8	46.4	0.4	50.5	49.5	1.0
中央魚類・千住	43.5	43.9	-0.4	48.4	50.0	-1.6
(大田市場)	55.1	53.9	1.2	61.8	61.0	0.8
東京大田魚市場	57.5	55.3	2.2	64.8	63.3	1.5
大都魚類・大田	51.9	52.1	-0.2	57.2	57.9	-0.7

6 出荷地別取扱高

(1) 総取扱高

都道府県別の取扱数量のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位千葉・4位宮城・5位北海道・6位青森・7位愛知・8位三重・9位神奈川・10位茨城となり、1位から6位までは前年と同順位、愛知が9位から7位に上がり、茨城がベスト10入りした。取扱金額のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位北海道・4位千葉・5位宮城・6位青森・7位神奈川・8位三重・9位愛知・10位大阪となった。

(2) 鮮魚取扱高

取扱数量では、1位東京・2位千葉・3位宮城・4位北海道・5位青森・6位愛媛・7位福岡・8位静岡・9位三重・10位長崎となった。青森と愛媛が入れ替わり、静岡が順位を上げた。

(3) 冷凍魚取扱高

取扱数量では、1位東京・2位静岡・3位大阪・4位宮城・5位青森・6位神奈川・7位千葉・8位北海道・9位愛知・10位岩手となった。大阪が前年7位から3位に順位を上げた。

(4) 加工品取扱高

取扱量では、1位東京・2位千葉・3位静岡・4位北海道・5位宮城・6位茨城・7位愛知・8位福島・9位兵庫・10位神奈川となった。茨城が8位から6位に順位を上げ、兵庫、神奈川が入り替わった。

表1 年次別取扱高

(単位:トン・千円・%)

	平成11年	平成10年	平成9年	平成8年	平成7年	平成6年	平成5年
総数量	716,173	715,380	715,250	725,624	738,236	762,829	782,782
前年比	100.1	100.0	98.6	98.3	96.8	97.5	96.9
総金額	662,495,686	664,949,765	690,674,765	696,941,817	680,172,945	712,946,992	748,202,651
前年比	99.6	96.3	99.1	102.5	95.4	95.3	92.9

表2-1 年次別魚種別取扱数量

(単位:トン・%)

年次 魚種	平成11年		平成10年		平成9年		平成8年		平成7年		前年比					指 数 2年=100
	数 量	構 成 比	数 量	構 成 比	数 量	構 成 比	数 量	構 成 比	数 量	構 成 比	11年	10年	9年	8年	7年	
総数	716,173	100.0	715,380	100.0	715,250	100.0	725,624	100.0	738,236	100.0	100.1	100.0	98.6	98.3	96.8	85
鮮魚	195,106	27.2	188,626	26.4	192,221	26.9	183,138	25.2	191,772	26.0	103.4	98.1	105.0	95.5	104.2	113
活魚	16,344	2.3	15,767	2.2	14,349	2.0	13,995	1.9	14,650	2.0	103.7	109.9	102.5	95.5	105.4	130
貝類	52,989	7.4	54,674	7.6	56,077	7.8	57,631	7.9	56,149	7.6	96.9	97.5	97.3	102.6	99.6	87
冷凍魚	179,196	25.0	181,681	25.4	176,770	24.7	186,010	25.6	191,581	26.0	98.6	102.8	95.0	97.1	89.3	63
淡水魚	2,779	0.4	3,055	0.4	3,469	0.5	4,185	0.6	4,305	0.6	91.0	88.1	82.9	97.2	112.9	66
海藻類	7,664	1.1	8,060	1.1	7,768	1.1	7,761	1.1	7,599	1.0	95.1	103.8	100.1	102.1	98.3	99
加工品	262,096	36.6	263,518	36.8	264,595	37.0	272,904	37.6	272,181	36.9	99.5	99.6	97.0	100.3	96.4	87

79775

表2-2 年次別魚種別取扱金額

(単位:百万円・%)

年次 魚種	平成11年		平成10年		平成9年		平成8年		平成7年		前年比					指 数 2年=100
	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	11年	10年	9年	8年	7年	
総数	662,496	100.0	664,950	100.0	690,675	100.0	696,942	100.0	680,173	100.0	99.6	96.3	99.1	102.5	95.4	79
鮮魚	185,351	28.0	183,923	27.7	189,533	27.4	187,659	26.9	185,410	27.3	100.8	97.0	101.0	101.2	99.4	96
活魚	23,422	3.5	23,796	3.6	25,564	3.7	25,190	3.6	24,161	3.6	98.4	93.1	101.5	104.3	98.1	88
貝類	48,501	7.3	49,063	7.4	51,482	7.5	51,848	7.4	52,141	7.7	98.9	95.3	99.3	99.4	95.9	77
冷凍魚	199,218	30.1	198,489	29.9	207,118	30.0	208,194	29.9	196,972	29.0	100.4	95.8	99.5	105.7	89.9	65
淡水魚	3,753	0.6	4,438	0.7	4,950	0.7	5,386	0.8	5,455	0.8	84.6	89.7	91.9	98.7	102.1	67
海藻類	3,537	0.5	3,560	0.5	3,157	0.5	3,073	0.4	2,986	0.4	99.4	112.8	102.8	102.9	98.7	112
加工品	198,714	30.0	201,681	30.3	208,871	30.2	215,593	30.9	213,047	31.3	98.5	96.6	96.9	101.2	96.9	80

表2-3 年次別魚種別平均価格

(単位:kg/円・%)

年次 魚種	平成11年		平成10年		平成9年		平成8年		平成7年		対平成2年(1990)指数				
	価 格	前 年 比	価 格	前 年 比	価 格	前 年 比	価 格	前 年 比	価 格	前 年 比	11年	10年	9年	8年	7年
総数	925	99.5	930	96.3	966	100.5	960	104.2	921	98.6	93	93	97	96	93
鮮魚	950	97.4	975	98.9	986	96.2	1,025	106.0	967	95.4	86	88	89	92	87
活魚	1,433	95.0	1,509	84.7	1,782	99.0	1,800	109.1	1,649	93.1	68	71	84	85	78
貝類	915	102.0	897	97.7	918	102.0	900	96.9	929	96.3	89	88	90	88	91
冷凍魚	1,112	101.8	1,093	93.2	1,172	104.7	1,119	108.9	1,028	100.7	104	102	109	104	96
淡水魚	1,350	93.0	1,453	101.8	1,427	110.9	1,287	101.5	1,267	90.4	103	110	108	98	96
海藻類	462	104.5	442	108.7	406	102.7	396	100.7	393	100.5	114	109	101	98	97
加工品	758	99.1	765	97.0	789	99.9	790	100.9	783	100.5	93	94	97	97	96

表3-1 市場別・年次別取扱数量

(単位:トン・%)

市場	年次 区分	平成11年		平成10年		平成9年		平成8年		平成7年	
		数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比
総数	数量	716,173	100.0	715,380	100.0	715,250	100.0	725,624	100.0	738,236	100.0
	前年比	100.1	-	100.0	-	98.6	-	98.3	-	96.8	-
築地	数量	628,651	87.8	622,533	87.0	620,958	86.8	628,567	86.6	640,292	86.7
	前年比	101.0	-	100.3	-	98.8	-	98.2	-	96.1	-
足立	数量	50,661	7.1	52,605	7.4	53,887	7.5	57,272	7.9	58,456	7.9
	前年比	96.3	-	97.6	-	94.1	-	98.0	-	100.8	-
大田	数量	36,861	5.1	40,242	5.6	40,405	5.6	39,786	5.5	39,488	5.3
	前年比	91.6	-	99.6	-	101.6	-	100.8	-	101.8	-

表3-2 市場別・年次別取扱金額

(単位:百万円・%)

市場	年次 区分	平成11年		平成10年		平成9年		平成8年		平成7年	
		金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
総数	金額	662,496	100.0	664,950	100.0	690,675	100.0	696,942	100.0	680,173	100.0
	前年比	99.6	-	96.3	-	99.1	-	102.5	-	95.4	-
築地	金額	584,996	88.3	582,656	87.6	605,913	87.7	610,378	87.6	596,193	87.7
	前年比	100.4	-	96.2	-	99.3	-	102.4	-	95.2	-
足立	金額	43,250	6.5	45,030	6.8	47,616	6.9	49,747	7.1	48,835	7.2
	前年比	96.0	-	94.6	-	95.7	-	101.9	-	96.6	-
大田	金額	34,249	5.2	37,263	5.6	37,146	5.4	36,817	5.3	35,145	5.2
	前年比	91.9	-	100.3	-	100.9	-	104.8	-	97.7	-